

園生活における食事の時間

柴坂 寿子

園生活の一日の中には、いろいろな時間があります。食事の時間もその一つです。食事の時間を子どもたちはどのように過ごしているのか、子どもたちにとってどのような時間なのかを、ある幼稚園で観察した食事の時間での子どもたちの様子から考えてみたいと思います。なお、この幼稚園は二年保育で、お弁当持参の幼稚園です。

食に関連したやりとりをする

〈事例1〉

年少一学期。

はやとたち六人の男の子がテーブルに着いている。クラス全員での「いただきます」が終わると、それぞれがお弁当箱のふたを開けて中身を見る。

おさむとたいちが「おれ、おいしいの入っている」と言い合う。はやとは「わあお、見てごらん。」

「お肉！」と言うと、全員がちらつとはやとを見る。

はやとはお弁当を他の子たちに次々に見せる。たいちが「僕、○ポテト」とお弁当の中身をおさむに見せている。はやとはおさむ・たいち、そしてのりにも「ほら」とお弁当を見せ、のりが「いいな」とうらやましがらる。のりは自分のふたをぱつと開けて、「あー、よかった、これで。メロンとサンドイッチ」と喜び、ふたをなめる。

おさむが「おれのおいしいなあ、あー」と言いながら食べる。はやとも「あーん」と満足そうな声を上げて食べている。

「ごろうがはやと・ふみやに「おれのも見て」とお弁当を見せる。はやとが「ごろうのお弁当を指して「あ、はやとと同じやつだね」と指摘すると、たいちも「ごろうに「あ、おにぎり同じ」と言う。ごろう

はたいちに「ふりかけおにぎりでしょうか？ 僕のはごまおにぎり。違う」と手を横に振るが、おさむは「同じだな」と断定する。

今度ははやとがおさむのお弁当に自分の肉団子を近づけて、「あ、同じの」と指摘する。ふみやが自分のお弁当を指して「これも同じ」と言う、はやとは「本当だ」と自分の肉団子をふみやの肉団子に近づける。ふみやは「ちよつと色が違うけど」とコメントする。

子どもたちはたくさん遊んで、お腹がすいて、お弁当を食べることがとても待ち遠しい様子でした。いよいよお弁当箱のふたを開ける時は、今日はどんなお弁当なのかわくわくしている様子が上の事例からもわかります。食べ物を見せ合って、同じものが入っていることを喜び合ったりもしています。

次の事例のように、入っている食べ物から、「

が好き」「〜が嫌い」と食べ物の好き嫌いの話になることもあります（事例2）。またお互いのお弁当の取りかえっこをしたり、おねだりしたりすることもありました（事例3）。

〈事例2〉

年長一学期。

えりこたち五人の女の子がテーブルに着いている。クラス全員での「いただきます」のあいさつのあと、お弁当箱のふたを開けたえりこが「唐揚げが入ってる。あたしこれが一番嫌い。嫌いなんだけどうろがいないから食べる」と話す。かりんも「きゅうり、あんまり嫌い」と話す。

〈事例3〉

年長一学期。

かりんたち五人の女の子がテーブルに着いてお弁

当を食べている。かりんがかおるのお弁当のサンドイッチを指さすと、かおるが一切れくれる。かりんはお返しにかおるの口に自分のお弁当のおかずを少し入れる。

しばらくしてからかりんはじゅりに「かりんはウインナーソーセージが好きなんだよ」と何度も言う。じゅりは少し考えてから自分のソーセージを一つかりんにあげる。じゅりがかりんに「おいしかった？」と聞く。かおるがかりんに「こんなときは何て言うんですか？『ありがとう』でしょうか？」と言う。

子どもたちの特徴や

経験に関連したやりとりをする

前述のように、食べ物を目の前にして、好き嫌いや、食べたことのあるものなど、食に関連した自分や仲間の特徴や経験の話になることはしばしばです。

た。

それと同様に、食以外の子どもたちのさまざまな特徴や経験もまた、食事の時間で語られていました。たとえば、見たことのあるテレビ番組、もっているおもちゃ、行ったことのある場所、できることなどなど。次の二つの事例のように、そうした特徴や経験の比べ合いもよく行われていました。

〈事例4〉

年少二学期。

おさむやたけしたち男の子五人とみきがテーブルに着いてお弁当を食べている。みきが「たけしくんち、知っているよ」と話すと、おさむたちが次々に「おれも」と言う。けいじがみきに「たけしくんち、ひとりで行ける？」と聞く。みきは答ええない。今度はおさむが「行けるね？」とみきに聞くがみきは答ええない。けいじは「行けるー」と言う。

〈事例5〉

年少二学期。

みきは「じゃ、A公園（近くの公園）ひとりで行ける人、手を挙げてー」と聞く。みき・けいじ・おさむが「はーい」と手を挙げる。けいじは「おれなんか（公園の）下だもん」と言って、おさむの肩を触る。みきは「みきちゃんちね、A公園のすぐ近くなんだよ」と話す。けいじもおさむも「おれも」と言う。

りなたち女の子六人でテーブルに着いてお弁当を食べている。りなが「B水族館でお魚見た人、手を挙げてー」と聞く。りなと一緒に「はーい」と手を挙げたゆりあが「見たよ、あたしだって」と主張する。りなも「りなちゃんだって見たよ」と主張する。ゆりあが「イルカのショーも見たし」と続ける。りなは「え？」と驚いて、「りなちゃんはイル

カのショーは見なかった。お魚に餌あげるところは見たんだけど」と話す。

仲間と遊ぶ

食事の時間には、座ったまままでできるような仲間との遊びやふざけっこをしていることもありました。

〈事例6〉

年少二期。

けいじたち男の子五人がテーブルに着いてお弁当を食べている。けいじが「ねえねえ、しりとりやろう」と提案すると、てるが「やる」と答えて、しうと三人でしりとりが始まる。けいじが「じゃあね、…うんこ。こ」と始める。てるが「こま」と答える。けいじが「ま」と言って、続けるようにしようを促す。しうは「まこと」と答える。けいじが「まくらでもいい」と言うと、しうは「違う。ま

こと。まこと、ありがとうございました」とふざけ、「た」と言って、続けるようにけいじを促す。このあともしりとりが続く。

遊ぶ約束をする

食事の時間には、食事の後や降園後に遊ぶ約束を取り付けようとする様子も見られました。

〈事例7〉

年少二期。

おさむたち男の子五人とみきがテーブルに着いてお弁当を食べている。しばらく食べ物のお話が続いたあと、おさむが「ねえねえ、けいじくん、ご飯終わったらみきちゃんと競争しよう」とけいじを誘う。けいじはうなずく。
しばらく違う話題で話が続く。かんだが口を挟み、「ねえねえ、けいじくん、今度てるくんとおさむく

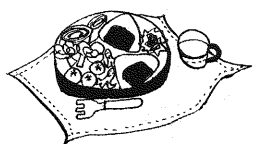
んとけいじくん、うちんち来ない？」とけいじを誘う。

〈事例8〉

年少二期。

ゆりあたち女の子五人でテーブルに着いてお弁当を食べている。ゆりあがあげみに「スクーターで遊ぼう。『また？』って言うなつてば」と誘う。あげみはうれしそうにする。ゆりが「一緒に遊ぼう」とゆりあを誘う。ゆりあが「スクーターだよ？」と人差し指をたててゆりに確認する。

りなが「ゆりあちゃん、今日うちんち」と言いかけてから、「……うん。……今日ゆりあちゃんち行っていい？」と言ひ直して尋ねる。ゆりあは「いいけど、みぎちゃん呼んでる」と答える。



まとめ

子どもたちは食事をとても楽しんでいる様子でした。そして一緒に食べながら、食べ物について、また自分たちの特徴や経験についておしゃべりしたり、言葉やしぐさで仲間と遊んだりしていました。遊ぶ約束を取り付けていることもありました。

動きの激しい園生活の中で、食事の時間は一定時間ある場所に落ち着いて座っているという特徴を備えています。こうした時間は、子どもたちにとって食事をする時間であると同時に、仲間との会話ややりとりの時間であり、さまざまな情報交換や仲間との遊び、交渉ごとをする重要な機会なのだろうと考えられます。
(お茶の水女子大学)

注：本稿は倉持清美・東京学芸大学助教授との共同研究を元にしたものです。